

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009 年～2012 年

課題番号：22243030

研究課題名（和文） 戦前期農家経済の実証分析：パネルデータ化の試み

研究課題名（英文） Empirical Analysis of Agricultural Households in the Pre-war Period Japan: A Panel Data Approach

研究代表者

北村 行伸 (KITAMURA YUKINOBU)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：70313442

研究成果の概要（和文）：戦前の農家経済調査の個票をデータベース化し、それに基づいて、経済史、農業経済、開発経済学などの学際的なアプローチを用いて総合的に農家経済のあり方を分析した。とりわけ、戦前農家の金融負債の在り方、戦時期の食料集荷統制の在り方などについて具体的に検討を行い、論文として公刊し、学会発表を行った。また、開発経済学との関係で、現在の発展途上国における農家の直面する各種のリスクに対する制度的対応としてどのようなものがあり、それが戦前期の日本農家の制度とどのように類似しているのか等について検討を行った。

研究成果の概要（英文）：We construct the panel data base of agricultural households in the Pre-war Period Japan. We analyze agricultural household behavior from the viewpoints of economic history, agricultural economics and development economics. In particular, we investigate the debt problem in agricultural household in the pre-war period and the food control issues in the war-time. The results of these researches are presented at the academic conferences and published in academic journals. In the field of development economics, agricultural households in the current developing countries, facing various risks such as climate shock and commodity price volatility, create institutional arrangements that might resemble those functions in the pre-war Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	13,700,000	4,110,000	17,810,000
2011 年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
2012 年度	10,900,000	3,270,000	14,170,000
総計	35,500,000	10,650,000	46,150,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史・農家経済

1. 研究開始当初の背景

戦前の農家経済調査のデータベース化は開始されていたが、まだ実証研究に耐えるレベルには達していなかった。さらに、農家経済の調査方法や簿記に関する理解も不十分であった。しかし、この農家経済調査の調査内

容は極めて広範なもので、世界有数の農家経済に関するパネル調査であることが知られており、そのデータベース化が切望されていた。

2. 研究の目的

戦前の農家経済調査のデータベース化を実証研究に耐えるレベルにまで仕上げ、それを用いて、経済史、農業経済学、開発経済学などの学際的アプローチを用いて総合的に農家経済のあり方を分析することにある。とりわけ、戦前期の脆弱な農家経済における、各種リスクへの対処がどの程度行われていたのかを分析することで、政策含意を得る。

3. 研究の方法

農家経済調査を使った実証研究は、数量経済史の手法を使った消費分析、生産関数の推定を行った。農家簿記分野では、農家経営という視点から簿記会計がどのような影響を与えたかを分析した。開発経済学からは、天候や経済リスクに対する農家の対応を分析した。

4. 研究成果

研究成果としては、農家経済調査のデータベース化がかなり進捗し、41 府県分のデータベース化が終了あるいは着手済みになった。これは当初予定をはるかに超えるペースで行われた。また、研究面では、論文として公開し、研究会・講演会などでその成果を発表した。具体的な内容は「5. 主な発表論文等」で報告している通りであるが、全体としては、農家経済の各種のリスクに対する対応の仕方を様々な側面から分析した。また、食糧管理と地主制との関連についても研究を行った。さらに、調査方法・資料論に関する成果を一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センターから統計資料シリーズとして、7冊刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 39 件)

- [1] 有本寛・藤栄剛・仙田徹志、「1930 年代日本の農家負債：『農家負債に関する調査』のマイクロデータ分析」、『経済研究』、査読有、2013、64 巻、13-29
- [2] 尾関学、「大槻正男「自計式農家経済簿記とその理論：英語版」について（解題）」、大槻正男（著）『自計式農家経済簿記とその理論：英語版 附解題』一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター刊（図書所収論文）、査読無、2013、1-13
- [3] 北村行伸、「縦断調査の厚生労働政策への応用に向けて」、『厚生労働の指標』、厚生労働統計協会、査読無、60 巻、2013、38-49
- [4] 北村行伸・宮崎毅、「所得不平等と税の所得再分配機能の評価：1984-2004 年」、『経済研究』、査読有、63 巻、2012、56-69

- [5] Osamu Saito and Masahiro Sato, “Japan’s registration systems before and after the Meiji Registration,” K. Breckenridge and S. Szreter, eds. *Registration and Recognition: Documenting the Person in World History* (Oxford: Oxford University Press) (図書所収論文) 査読無、2012、113-135
- [6] 黒崎卓、「途上国における自然災害の経済分析に向けたデータ収集方法：研究展望とパキスタンの事例」、『アジア経済』、査読有、53巻、2012、48-68
- [7] 三浦憲・櫻井武司、「誰が天候インデックス保険を購入するのカーザンビア農村における販売実験—」、『日本農業経済学会論文集 2012』、査読有、2012、442-449
- [8] C.G.E. Ramos, J.P. Estudillo, Yasuyuki Sawada, and K. Otsuka, “Transformation of the Rural Economy in the Philippines, 1988-2006,” *Journal of Development Studies*, 査読有、Vol. 48, 2012, 1629-1648, DOI: 10.1080/00220388.2012.716151
- [9] 李妍蓉・浅見淳之、「中国農村での「代耕」による農地流動化の社会的要因：湖南省都市近郊農村を事例に」、『中国経済研究』、査読有、第9巻第1号、2012、23-32
- [10] 浅見淳之、「中国・湖南省で農地流動化は進んでいるのか—伝統社会を生かした農村建設—」、『生物資源経済研究』、査読有、No.17、2012、197-206
- [11] 浅見淳之、「中国における農地の財産権への「法と経済学」からの接近」、『農林業問題研究』、査読有、第48巻第1号、2012、78-83
- [12] Yasuyuki Sawada and J. P. Estudillo, “The MDGs and Exit Time: The Case of the Philippines,” *Applied Economics*, 査読有、vol. 44, 2012, 3371-3377
- [13] Yukinobu Kitamura and T. Miyazaki, “Marriage Promotion Policies and Regional Differences in Marriage,” *The Japanese Economy*, 査読有、Vol. 38, 2011, 3-39
- [14] 北村行伸・内野泰介、「家計の資産選択行動における学歴効果—逐次クロスセクションデータによる実証分析—」、『金融経済研究』、33 巻、査読有、2011、24-45
- [15] Osamu Saito, “The stem family and labour markets: reflections on households and firms in Japan’s economic development,” *The History of the Family*, 査読有、vol. 16, 2011, 466-480
- [16] 黒崎卓、「村落レベルの集計的ショックに対する家計の脆弱性：パキスタン農村部における自然災害の事例」、『経済研究』、査読有、622、2011、153-165
- [17] 木附晃実・櫻井武司、「ザンビア農村

における消費の季節変動と消費構成の変化」、
『日本農業経済学会論文集2011』、査読有、
2011、380-384

[18] 那須田晃子・菅野洋光・櫻井武司、「豪
雨被害が家計および個人の時間配分に与える
影響分析—ザンビア南部州の事例—」、
『日本農業経済学会論文集 2011』、査読有、2011、
385-392

[19] Takeshi Sakurai, A. Nasuda, A.
Kitsuki, K. Miura, T. Yamauchi, and H.
Kanno, “Measuring Resilience of
Household Consumption - The Case of the
Southern Province of Zambia -,” *The
Special Issues of the Journal of Rural
Economics 2011*, 査読有、2011、393-400

[20] K. Miura, H. Kanno, and Takeshi
Sakurai, “Shock and Livestock Transac-
tions in Rural Zambia: a Re-examination of
the Buffer Stock Hypotheses,”

Japanese Journal of Rural Economics, 査
読有、14, 2011, 20-34

[21] 藤栄剛・仙田徹志、「恐慌ショックに対
する農家の経済行動」、『農業経済研究』、査読
有、83(1)、2011、15-27

[22] K. Kurita and Takashi Kurosaki,
“Dynamics of Growth, Poverty, and In-
equality: A Panel Analysis of Regional
Data from Thailand and the
Philippines,” *Asian Economic Journal*, 査
読有、vol. 25 No. 1, 2011, 3-33

[23] Osamu Saito, “An industrious
revolution in an East Asian market
eco-nomy? The case of Tokugawa Japan and
implications for the Great Divergence,”
Australian Economic History Review, 査読
有、vol. 50, 2010,
240-261

[24] 北村行伸、「国債の経済学再考 —物価
連動債に関する市場の動向と政策対応を中心
に—」、『証券アナリストジャーナル』、査読無、
Vol. 48 No. 3、2010、pp. 28-37

[25] 黒崎卓、「インド、パキスタン、バング
ラデシュにおける長期農業成長」、『経済研究』、
査読有、61 巻 2 号、2010、168-189

[学会発表] (計 21 件)

[1] 櫻井武司、「Basis Risk と保険需要—ザ
ンビア農村における降雨量インデックス保
険の事例—」、2013 年度日本農業経済学会、
2013 年 3 月 30 日、東京農業大学 (東京都世
田谷区)

[2] Yasuyuki Sawada, “Incentives and
Social Preferences in a Traditional Labor
Contract: Evidence from Rice Planting
Experiments in the Philippines,” SSD

Division Seminar Series, International
Rice Research Institute, 2013年2月26日、
International Rice Research Institute, Los
Baños, the Philippines

[3] 尾関学、「農家経済調査の英日比較—
比較史からみた制度の形成過程—」、2012
年度社会経済史学会中国四国部会松山大会、
2012年12月9日、松山大学 (愛媛県松山市)

[4] 永江雅和、「戦時期部落割当食糧供出と
地主制」、政治経済学・経済史学会秋季学術大
会、2012年11月10日、慶應義塾大学 (東京都
港区)

[5] Takashi Kurosaki, “Dynamics of
Household Assets, Income Shocks, and
Credit/Insurance Markets in the Long-run
Process of Economic Development,” *Asian
Development Review Conference (招待講演)* ,
2012年11月7日、Asian Development Bank,
Manila, the Philippines

[6] Takeshi Sakurai, “Rainfall Shock
and Livestock Transactions in Rural
Zambia: An Empirical Examination Using
High Frequency Panel Data,” *Asian
Historical Economics Conference*, 2012年
9月14日、一橋大学 (東京都国立市)

[7] Manabu Ozeki, “Agricultural Surveys
in Japan and England,” *The 7th
Anglo-Japanese Conference of Historians*,
2012年9月14日、Cambridge University,
Cambridge, UK

[8] Takashi Kurosaki, “Asset Dynamics
after a Natural Disaster in Rural Pakistan:
Contemporary Evidence and its Inter-
pretation in the Context of Long-run
Economic Development,” *The 2012 Asian
Economics Conference*, 2012年9月13日、一橋
大学 (東京都国立市)

[9] 北村行伸、「所得不平等と税の所得再分
配機能の評価：1984-2004 年」、日本経済学会
春季大会、2012 年 6 月 24 日、北海道大学 (北
海道札幌市)

[10] Takeshi Sakurai, “Role of Wild Food
Items for Seasonal Consumption Smoothing:
The Case of Rural Zambia,” *Japan
Geoscience Union Meeting 2012*, 2012 年 5
月 12 日、幕張メッセ (千葉県浦安市)

[11] 櫻井武司、「誰が天候インデックス保
険を購入するのか—ザンビア農村における
販売実験—」、2012年度日本農業経済学会、
2012年3月30日、九州大学 (福岡県福岡市)

[12] Yasuyuki Sawada, “Incentives and
Social Preferences in a Traditional Labor
Contract: Evidence from Rice Planting
Experiments in the Philippines,” Hakone

Conference in Tokyo 2011 on Empirical Micro Development Economics, 2011年12月21日、政策研究大学院大学（東京都港区）

[13] Takashi Kurosaki, “Vulnerability of Household Consumption to Village-level Aggregate Shocks in a Developing Country,” 7th Conference of Asian Society of Agricultural Economics, 2011年10月14日、Center for Women Development, Hanoi, Vietnam

[14] Takeshi Sakurai, “How Vulnerable and Resilient are Farmers Against Unexpectedly Extreme Weather?: Evidence From the Case of Heavy Rain in Drought-Prone Semi-Arid Area of Zambia,” Resilience 2011, 2011年3月13日、Arizona State University, Tempe: AZ, USA

[15] 櫻井武司、「ザンビアの旱魃常襲地帯における大雨ショックと農家家計の復元力」、PRIMCED 研究会、2010年12月22日、一橋大学（東京都国立市）

[16] Takashi Kurosaki, “Vulnerability of Household Consumption to Natural Disasters in Rural Pakistan,” The 6th Annual Conference on Economic Growth and Development, 2010年12月16日、Indian Statistical Institute Delhi Center, Delhi, India

[17] 櫻井武司、「家計および個人レベルのレジリアンスの実証—ザンビアの旱魃常襲地帯における豪雨の事例—」、国際開発学会、2010年12月4日、早稲田大学（東京都新宿区）

[18] Takashi Kurosaki, “Intertemporal Choice and Inequality in Low-Income Countries: Evidence from Thailand, Pakistan, and India,” Northeast Universities Development Consortium (NEUDC)

Conference, 2010年11月6日、Massachusetts Institute of Technology, Cambridge, MA, USA

[19] 黒崎卓、「ミクロ家計データから見る南アジアの経済成長と貧困・不平等」、日本南アジア学会、2010年10月3日、法政大学（東京都八王子市）

[20] Yukinobu Kitamura, “Monetary Policy under Large Public Debt,” 日本経済学会 2010 年度秋季大会、2010年9月19日、関西学院大学（兵庫県西宮市）

〔図書〕（計3件）

[1] 北村行伸・宮崎毅、岩波書店、『税制改革のミクロ実証分析—家計経済からみた所得税・消費税』、2013、296

[2] 稲本志良・小野博則・四方康行・横溝功・浅見淳之、昭和堂、『農業経営発展の会計学—現代、戦前、海外の経営発展—』、2012、348

[3] 翁 邦雄・北村 行伸、日本評論社、『金融業と人口オーナス経済 高齢化社会における金融・経済のあり方』、2011、241

6. 研究組織

(1) 研究代表者

北村 行伸 (KITAMURA YUKINOBU)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号：70313442

(2) 研究分担者

斎藤 修 (SAITOU OSAMU)
一橋大学・名誉教授
研究者番号：40051867

安田 聖 (YASUDA SATOSHI)
一橋大学・名誉教授
研究者番号：70115955

佐藤正広 (SATOU MASAHIRO)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号：80178772

黒崎 卓 (KUROSAKI TAKASHI)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号：90293159

櫻井武司 (SAKURAI TAKESHI)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号：40343769

(3) 連携研究者

澤田 康幸 (SAWADA YASUYUKI)
東京大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：40322078

浅見 淳之 (ASAMI ATSUYUKI)
京都大学・大学院農学研究科・准教授
研究者番号：60184157

仙田 徹志 (SENDA TETSUSHI)
京都大学・学術情報メディアセンター・准教授
研究者番号：00325325

永江 雅和 (NAGAE MASAKAZU)
専修大学・経済学部・教授
研究者番号：70327980

尾関 学 (OZEKI MANABU)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准
教授
研究者番号：90345455